

[専門教育科目/看護の基本]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論 I	NSP12_001	必修	2	1	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
中溝 道子 他	403	m.nakamizo	火・水・木曜日 12:00~13:00		
授業の目的・概要	<p>【目的】 子高齢化、疾病構造の変化、医療の高度化の中、看護師の役割への期待は大きくなっている。社会の期待にこたえるために看護師は確実な看護実践力を身につけておく必要がある。ここでは、看護実践力の基礎となる共通基本技術及び日常生活援助に必要な知識・技術・態度を修得することを目的とする。</p> <p>【概要】 看護学の学問体系において、その基盤となる専門領域の基礎看護学であることから、看護活動の前提となる看護技術を EBN の視点から説明する。ここでは、Teams による遠隔授業とフィードバックを利用し意見交換を行うとともに、対面授業による演習を組み合わせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護技術の特質に照らし、倫理的判断と対象者の権利擁護について説明する。 看護を実践するための共通基本技術である人間関係成立、感染防止、安全確保について説明し演習する。 日常生活援助である環境調整、飲食、排泄、清潔、衣生活、活動と休息及び苦痛の緩和、呼吸・循環を整える技術について説明するとともに演習する。 				
学習上の助言	<ol style="list-style-type: none"> 看護技術は「看護観」の表現技術と言われている。「看護とは何か」に照らし、一つ一つの技術がどのように繋がっているかを考えながら学習してほしい。 人間の日常生活行動はどのような体の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元で必要な人体構造機能学を復習・予習を行い授業に臨んで欲しい。 看護技術の修得段階は、知る段階・身につける段階・使う段階に分けられる。知る段階では、援助の目的・目標及び目標を達成するための具体的な行動を明確に描くこと。身につける段階では、繰り返し練習し定着させることが大切となる。したがって、授業時間だけではなく、自己学習時間を使用し反復練習を勧める。 手順通りに看護技術を適用するだけでは看護専門職の行為とはいえない。対象の状況をアセスメントし看護判断力を鍛えることが大切となる。そのためには、常に疑問を持ち調べ考える習慣を身につけ、判断力の基盤となる知識を自分のものにしてほしい。 				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ 第17版/著:茂野香おる、有田清子 他/医学書院/2019 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ 第17版/著:任和子、有田清子 他/医学書院/2019 [2冊指定] 				
参考書	ヘンダーソン看護論と看護実践への応用 初版/著:金子道子 他/照林社/2019				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護技術における倫理的判断と対象者の権利擁護の大切さについて説明できる。	HSU(1)、(2)、NS (1)			
②	人間関係構築のためのコミュニケーション能力を身につける。	HSU(1)、(2)、(4)、NS (2)			
③	日常生活援助において、根拠をおさえた基本技術を実践できる。	HSU(1)~(4)、NS (4)			
④	個別性を反映し、その人にあった看護技術の大切さについて述べるができる。	HSU(1)~(4)、NS (3)、(4)			
⑤	援助技術の習熟や工夫について、取り組み姿勢を示すことができる。	HSU(5)、(6)、NS (5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	看護技術総論 看護技術とは何か、看護技術の基盤、看護援助の原則について学習する。	同時双方型 授業	事前課題を実施しておく。 ① 教本及び配布資料を基に、看護援助方法論 I はどのような科目と理解したか。 ② 看護技術修得に向けてどのように取り組みたいか明確にする。	1	
2	人間関係を発展させるためのコミュニケーション技術について学習する。 ・コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・関係構築のためのコミュニケーションの基本 (演習:関係構築のためのコミュニケーション)	クラス人数 分割による 対面授業	事前課題を実施しておく。 ① 教本及び配布資料を読み、関係構築のためのコミュニケーションについて、まとめる。	1	
3	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・環境とは ・人間にとっての環境の意味 ・F・ナイチンゲール看護覚え書から見る環境 ・生活環境を整えるとは	同時双方型 授業	事前課題を実施しておく。 配布資料及び教本を基に、自分の住居環境が健康的か観察し評価する。 ・部屋の空気の清浄・室温と湿度 ・採光・照明の調節・ベッドと寝具類の清潔・騒音等	1	
4	技術演習を行う際の留意事項の説明と実施 ・演習の際の学習の仕方、服装・髪型・爪 (演習:手指消毒・洗い残し点検)	対面授業	事前課題を実施しておく。 ① 「実習室の使用手引き」を熟読し演習に向けての準備をする。 ② 教本のコミュニケーション単元の「外見・身だしなみ」p35を参照し演習時の臨み方を考える。	1	
5	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 (演習:リネンのたたみ方)	対面授業	事前課題を実施しておく。 教本を読みベッド周囲の環境整備の着目点をまとめる。	1	
6	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 (演習:ベッドメイキング)	対面授業	事前課題を実施しておく。 教本を参考にして、ベッドメイキングの留意事項・手順書を作成する。	1	
7	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:ベッドメイキング)	対面授業	デモンストレーション及び実施を基に、手順書の加筆修正をする。	1	

[専門教育科目/看護の基本]

8	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:臥床患者のシーツ交換)	対面授業	事前課題を実施しておく。 教本及び配布資料を基に・臥床患者のシーツ交換の留意事項・手順書を作成する。	1	
9	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:臥床患者のシーツ交換)	対面授業	デモンストレーション・実施を基に、手順書の加筆修正をする。	1	
10	身体を動かした良好な姿勢を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・よい姿勢とは ・ボディメカニクス (演習:ボディメカニクス)	対面授業	事前課題を実施しておく。 ① 「ボディメカニクス」の方法と根拠について、図と文章で説明する。 ② 「よい姿勢」「廃用症候群」「良肢位」について図と文章で整理する。	1	
11	良好な姿勢を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:体位・体位変換)	対面授業	事前課題を実施しておく。 各種体位について調べる。体位の専門用語をしっかりと記述できるようにしておく。	1	
12	良好な姿勢を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:体位・体位変換)	対面授業	体位及び体位変換の復習	1	
13	移動を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・体位変換・移乗・移送 (演習:移乗・移送)	対面授業	事前課題を実施しておく。 車椅子・ストレッチャーにおける移乗と移送の留意点・方法を調べる。	1	
14	移動を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・体位変換・移乗・移送 (演習:移乗・移送)	対面授業	車椅子・ストレッチャーにおける移乗と移送の援助技術について練習する。	1	
15	安全確保について必要なエビデンスについて学習する。誤認防止、患者誤認防止、転倒転落防止 等	同時双方型 授業	事前課題を実施しておく。 医療現場で起きる危険性について調べる。	1	
16	適切な飲食を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・適切に飲食するとは。 ・食事援助の基礎知識、食事介助の留意点 等	同時双方型 授業	事前課題を実施しておく。 ① 人間にとっての飲食の意義・栄養状態のアセスメントについて調べる。 ② 飲食を助ける援助技術の留意点をまとめる	1	
17	適切な飲食を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:飲食の援助)	対面授業	飲食の演習を通しての気づきと反省をまとめる	1	
18	排泄を助けるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・排泄のアセスメント (演習:床上排泄の援助)	対面授業	事前課題を実施しておく。 人間にとっての排泄の意義とメカニズムについて調べる。	1	
19	睡眠と休息を整えるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・睡眠の種類・サーカディアンリズム ・睡眠障害のアセスメントと援助	同時双方型 授業	事前課題を実施しておく。 人間にとっての睡眠と休息の意義について調べる。	1	
20	呼吸・循環を整えるために必要なエビデンスと技術について学習する。 ・肺痰ケア:体位ドレナージ・咳嗽の介助 等	同時双方型 授業	事前課題を実施しておく。 呼吸のメカニズム・体温調整の解剖生理学を復習する。	1	
21	体温を調節するために、必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:電法)	対面授業	事前課題を実施しておく。 体温調節の生理学的メカニズムをまとめる。 電法の適応と禁忌について調べる。	1	
22	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:寝衣交換)	対面授業	事前課題を実施しておく。 適切な衣類の選択と着脱を助けるための援助の意義についてまとめる。	1	
23	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:寝衣交換)	対面授業	事前課題を実施しておく。 適切な衣類の選択と着脱を助けるための衣生活の援助方法について課題を基にまとめる。	1	
24	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:全身清拭)	対面授業	事前学習を実施しておく。 身体の構造について復習し、皮膚の機能や役割について課題をもとに調べる。	1	
25	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:全身清拭)	対面授業	事前課題を実施しておく。 皮膚の清潔と快適な健康生活について調べる。	1	
26	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:部分清拭 足浴)	対面授業	事前課題を実施しておく。 清潔による心身の影響についてまとめる。	1	
27	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:部分清拭 足浴)	対面授業	事前課題を実施しておく。 全身の清潔の方法について課題をもとに調べ、安全・安楽な援助方法について調べる。	1	
28	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:部分清拭 足浴)	対面授業	事前課題を実施しておく。 身体各部の清潔の方法について課題を基に調べ、安全・安楽な援助方法についてまとめる。	1	
29	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:部分清拭 洗髪)	対面授業	事前課題を実施しておく。 清潔の援助方法について課題をもとに調べ、まとめる	1	
30	身体の清潔・衣生活を助ける為に必要なエビデンスと技術について学習する。(演習:部分清拭 洗髪・陰部洗浄)	対面授業	事前課題を実施しておく。 清潔の援助方法について調べた内容をもとに実施しまとめる。	1	
試	筆記試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

[専門教育科目/看護の基本]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		90	10	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	85	5	0	0	0	90
	思考・推論・創造する力	0	5	0	0	0	5
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		5	0	0	0	0	5
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	授業中に講義した内容の理解度について、学期の半ばに中間試験、学期末に定期試験を実施して評価する。形式は、記述式・選択式の混合である。(70点) 技術試験については、看護技術の修得状況を評価表に基づき評価する。評価表は事前に配布し評価の視点を明らかにする。(20点)				試験終了後に、試験の解説を行い学生の質問に答える。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	単元毎に学習課題を提示する。課題レポートの提出状況と内容により評価する。 演習終了時には、「演習を通しての学び・気づき」の課題を提示する				必要時コメントを記入する。 演習前には返却し、レポートを活用できるようにする。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤	✓					
備 考							
<p>【対面授業時の感染対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前の健康チェック・実施前後の手洗いを励行・実習室使用人数を通常の1/4～1/3に減少すると共に換気を行う。 ・患者体験を学生同士で実施していたが、感染の状況によっては学生同士の密着を避けるために、一部モデル人形得を使用する可能性もある。 ・学生は技術練習時には、必ずマスク及びフェイスシールドを着用する。また、節目毎に手指消毒を実施する。教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 ・演習終了毎に、使用したベッド周囲及びワゴンの消毒を実施する。 <p>【技術演習時の注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術演習は、「実習室使用の手引き」を読み、指示された髪色・髪型に整え実習ユニホームを着用する。爪は切って臨む。 ・事前学習課題レポートを持参すること。 ・実習室には、携帯電話・スマートホン等の電子機器は持参しない。 <p>【同時双方型授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを使った同時双方型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨する。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。 							
<p>担当教員：◎ 中溝 道子、溝口 孝美、窪川 理英</p> <p>教員の実務経験： 科目責任者は、看護師として臨床経験9年。大学の講師・准教授として基礎看護学領域の教育を10年以上経験する。</p> <p>実践的授業の内容： 担当教員の臨床経験及び今までの学生指導で得た経験を基に、各単元において事例紹介を交えて学生がイメージしやすいように工夫をして授業を進めている。</p>							